よぼうせっしゅのはなし

2023 年

監　修

国立大学法人　浜松医科大学
医学部 小児科学講座　教授

宮入　　烈

目　次

新型コロナウイルスについて　1
1　感染症について　2
2　接種時の注意事項　3
3　接種間隔　5
4　インフルエンザ菌ｂ型（ヒブ）の話　6
5　小児肺炎球菌感染症の話　7
6　Ｂ型肝炎の話　8
7　ロタウイルス胃腸炎の話　9
8　百日咳の話　10
9　ジフテリアの話　11
10　破傷風の話　12
11　ポリオの話　13
12　結核の話　14
13　麻疹（はしか）の話　15
14　風疹（三日ばしか）の話　16
15　水痘（みずぼうそう）の話　17
16　おたふくかぜの話　18
17　日本脳炎の話　19
18　髄膜炎菌感染症の話　20
19　ヒトパピローマウイルス感染症の話　21
20　インフルエンザの話　23
21　成人肺炎球菌感染症の話　24
22　帯状疱疹の話　25
23　Ａ型肝炎の話　26
24　海外に出かけるときの予防接種　27
付録　定期 / 臨時 / 任意予防接種スケジュール

この冊子は，2023 年 8 月時点における内容に基づき作成しております。その後内容に変更等が出てくる場合もありますので，最新の情報をかかりつけの医師や，お住まいの自治体予防接種窓口などへご確認ください。

新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルス感染症と新型コロナワクチンに関する情報については、随時、情報が更新されています。これらの最新情報は厚生労働省の以下のホームページに整理され掲載されておりますので、必要な場合には以下のリンクを参照してください。

◆ 新型コロナウイルス感染症について：

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

◆ 新型コロナワクチンについて：

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_00184.html

◆ 新型コロナワクチン Q&A：

https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa

1　感染症について

感染症について

私たちの健康は自らが守り，慈(いつく)しんでゆかねばなりません。世界中には，さまざまな感染症が存在し，感染，発症に悩まされている方々，地域，社会，国があります。現在の日本は衛生状態も良く，医療体制が整備され予防接種も普及していることから，感染症に対して比較的安全な国の１つと考えられます。しかし，日本の衛生状況がいくら良いといっても，すべてのウイルスや細菌による感染までは防ぐことができません。また，海外渡航時や災害時には感染症のリスクが高まります。特にウイルスに対する治療薬は少なく，いったん流行すると多くの患者や死者が出ることもあります。将来にわたって感染症の心配の少ない生活を送るためには，予防接種で防ぐことができる病気は予防接種で防ぐということを念頭に，乳児から大人まで予防接種を計画的に受けるようにしましょう。

2　接種時の注意事項

◎接種時の注意事項

予防接種の前後は，お子さんの体調など健康状態に常に気を配ってください。気にかかることがあれば，あらかじめかかりつけの医師，看護師，市区町村の担当者と相談しましょう。

◎接種前の注意

①市区町村からの通知やお知らせ，予診票（よしんひょう）などをよく読んで接種を受けましょう。わからないことがあれば接種を受ける前に質問しましょう。

②接種前日は入浴をさせ，身体を清潔にさせましょう。

③清潔な着衣を心がけましょう。

④予診票，母子健康手帳，市区町村からの通知やお知らせなど，市区町村の指示に従い，忘れないように持って行きましょう。

⑤当日はお子さんの健康状態をよく観察し，予診票に必要事項を記入しましょう。医師，看護師，市区町村の担当者などの指示に従って接種を受けましょう。

◎接種後の注意

①予防接種を受けたあとに，急な副反応がおこることがあるので，接種後 30 分間程度は接種場所でお子さんの様子を観察しましょう。やむをえず帰る場合は，すぐに医師と連絡がとれるようにしておきましょう。

②接種後，生ワクチンでは 4 週間，不活化ワクチンでは 1 週間は接種した箇所や腕，健康状態に注意し，気になることがあれば医師，看護師，市区町村の担当者に聞きましょう。

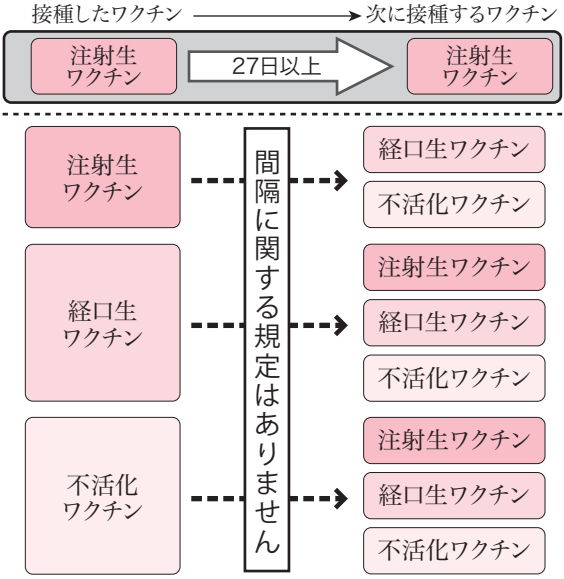
③接種当日は接種前も含め，はげしい運動をさせないようにしましょう。

④接種当日の入浴は差し支(さつか)えありませんが，接種した部分をこすらないように注意しましょう。

正しい知識を持って予防接種を受け，
お子さんの健康を守りましょう。

3　接種間隔

〈異なるワクチンを接種する際の接種間隔〉



《注意》

- 接種から数日間は、発熱や接種部位の腫脹などの症状が出ることがあります。規定上接種が可能な期間であっても、必ず、発熱や接種部位の腫脹がないことなど、体調に問題がないことを確認してから、接種してください。
- 特に医師が認めた場合、同時接種を行うことができます。
- 同一のワクチンを複数回接種する場合の接種間隔については添付文書等の規定に従ってください。

新型コロナワクチンと異なるワクチンの接種間隔については、1 ページに記載の厚生労働省ホームページを参照してください。

4 インフルエンザ菌ｂ型(ヒブ)の話

インフルエンザ菌ｂ型（ヒブ）の話

インフルエンザ菌ｂ型（ヒブ）はヒトからヒトに飛沫感染します。感染すると中耳炎や肺炎をおこすことがあり，まれに脳と脊髄を包む膜に炎症（髄膜炎）をおこすことがあります。ヒブワクチン導入以前は，日本ではヒブによる髄膜炎は一年間に 400 人くらいが発症し，そのうち約 25％に永続的後遺症が残り，約 5％が死亡すると考えられていました。しかし，ヒブワクチンの導入によりヒブ髄膜炎の発症率は公費助成前 3 年間と比べて大幅に減少したと報告されています。診断・治療が非常に難しい感染症ですが，ワクチン接種で予防することが可能です。

なお，後に述べるインフルエンザとは別の微生物による病気です。

◎ワクチンの接種対象

生後 2 か月から定期接種として受けることができます。標準的スケジュールは，初回免疫 3 回，追加免疫 1 回の計 4 回接種ですので，接種もれに注意してください。

5　小児肺炎球菌感染症の話

小児肺炎球菌感染症の話

肺炎球菌がひきおこす主な感染症は，細菌性髄膜炎，菌血症，肺炎などの重い全身性の感染症や中耳炎，副鼻腔炎などの気道感染症があります。特に，肺炎球菌による子どもの細菌性髄膜炎は，初期症状がかぜに似ているため判別が難しいだけでなく，後遺症を残しやすく，死亡例も多いことが知られています。細菌性髄膜炎にかかる子どもの半分以上は０歳児であり，生後６か月を過ぎると発症が増え，５歳ごろまでリスクがあります。

◎ワクチンの接種対象

定期接種としては，13 価肺炎球菌結合型ワクチンが使用されています。生後２か月から定期接種として受けることができます。標準的スケジュールは，初回免疫３回，追加免疫１回の計４回接種ですので，接種もれに注意してください。特に追加接種については，１歳になったら速やかに接種しましょう。

また，任意接種として 23 価多糖体ワクチンと 13 価および 15 価の結合型ワクチンの３種類があります。

23 価多糖体ワクチンは，呼吸器や心臓に病気のある方，糖尿病の方，また，病気やけがで脾臓をとってしまった方など肺炎球菌感染症のリスクが高い２歳以上の子どもを対象に接種いただけます。また，脾臓をとってしまった方に対しては健康保険などでワクチンが接種いただけます。

13 価および 15 価の結合型ワクチンは，呼吸器や心臓に病気のある方，糖尿病の方，また，病気やけがで脾臓をとってしまった方などの肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる方を対象として年齢に制限なく任意接種で接種いただけます。

6　B 型肝炎の話

B 型肝炎の話

B 型肝炎ウイルスに感染しておこる肝臓の病気です。通常の生活では感染しませんが，傷などがあるとウイルスに汚染された血液や体液などを介してまれに感染することがあります。成人が感染すると，倦怠感や黄疸などの症状が出る一過性の急性肝炎をおこすことが多いのですが，ときに持続感染をおこすことがあります。ウイルスの持続感染者をキャリアと呼び，将来，慢性肝炎・肝硬変・肝癌になる可能性が高く，5 歳未満の乳幼児期に感染するとキャリアになる率が高いことも知られています。ワクチンによる予防が大切です。

◎ワクチンの接種対象

キャリア（HBs 抗原陽性）の母親から出生した新生児は，HBIG（抗ヒト免疫グロブリン）と共に健康保険などでワクチンが接種できます（母子感染予防）。また，周囲からの水平感染リスクを考慮し，2016 年 10 月からは 0 歳児を対象に定期接種が開始されました。海外の多くの国でも，すべての出生児に接種するユニバーサルワクチネーションが行われています。任意接種としては，医療従事者・キャリアの家族・高齢者施設の職員・保育士・警察官・消防隊員など，汚染された血液や体液に触れる可能性のある方に特に勧められています。

7　ロタウイルス胃腸炎の話

ロタウイルス胃腸炎の話

ロタウイルス胃腸炎は，乳幼児に多くおこる感染性胃腸炎のひとつで，ロタウイルスというウイルスが原因です。日本でのロタウイルス胃腸炎の発症は冬～春に多く，主に生後３～24 か月の乳幼児におこりますが，ピークは生後７～15 か月です。生後３か月以降に初めて感染すると重症化しやすくなります。ロタウイルス胃腸炎の多くは突然の嘔吐（おうと）に続き，水のような下痢をおこします。発熱を伴うこともあり，回復には１週間ほどかかります。また，ほとんどの場合は特に治療を行わなくても経口での水分や電解質補給だけで回復しますが，時に脱水，腎不全（じんふぜん），脳炎・脳症などを合併することもあり，症状が重く脱水が強い場合には入院が必要となることもあります。

◎ワクチンの接種対象

ロタウイルスワクチンは定期接種のワクチンで，1 価ワクチンと５価ワクチンの２種類があります。どちらのワクチンも飲むワクチンです。1 価ワクチンは生後６週から 24 週までの間に 27 日以上の間隔をおいて２回接種し，５価ワクチンは生後６週から 32 週までの間に 27 日以上の間隔をおいて３回接種します。いずれのワクチンも１回目は生後 14 週６日までに接種することが推奨されています。

8　百日咳の話

百日咳の話

百日咳は百日咳菌の飛沫感染（ひまつかんせん）でうつります。普通のかぜのような症状で始まり，続いてせきがひどくなり，小児の典型例では，顔をまっ赤にして連続的にせきこむようになります。熱はあまり出ません。しかし乳幼児はせきで呼吸ができず，けいれんがおこることがあり，また肺炎や脳症などの重い合併症をおこし，命をおとすこともあります。大人の症状は長引くせき程度ですが，乳幼児への感染源になることがありますので，注意が必要です。

◎ワクチンの接種対象

百日咳は DPT-IPV *四種混合ワクチン（場合によっては DPT **三種混合ワクチン）で予防が可能で，生後 2 か月からの定期接種となっています。接種回数が合計 4 回と多いので，接種忘れに注意してください。

* DPT-IPV：沈降精製百日せきジフテリア破傷風不活化ポリオ混合ワクチン
** DPT：沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン

9　ジフテリアの話

ジフテリアの話

ジフテリアは，国内では 1999 年以降報告されていませんが，予防接種が一時期行われなくなった結果，流行がおこった国もあり，ジフテリアそのものがなくなったわけではありません。かかると重い病気で，呼吸困難をおこし，命をおとすこともあります。心臓や神経がおかされ心臓麻痺（まひ）や神経麻痺をおこすことがあり，大変危険です。ワクチンで予防できます。

◎ワクチンの接種対象

通常，乳幼児は DPT-IPV[*] 四種混合ワクチンで予防が可能で，生後 2 か月からの定期接種となっています。また，DT[***] 二種混合トキソイドを 11 歳から 12 歳のときに追加接種します。

*** DT：沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド

10　破傷風の話

破傷風の話

破傷風は，ケガをしたときに傷口から破傷風菌が入っておこる病気です。傷口が小さくても感染の危険性はあります。東日本大震災のときには，被災者の方で破傷風にかかられた方もいました。破傷風菌の出す毒素は，神経麻痺（まひ），筋肉の激しいけいれんや呼吸困難などをひきおこします。死亡率が高い病気であるためあらかじめ予防接種を受けて免疫をつけることが大切です。

◎ワクチンの接種対象

通常，乳幼児は DPT-IPV[*] 四種混合ワクチンで予防が可能で，生後 2 か月からの定期接種になっています。また，DT[***] 二種混合トキソイドを 11 歳から 12 歳のときに追加接種します。予防接種を受けていない場合やワクチンを受けてから 10 年以上たったときにケガをした場合の予防に，任意接種として沈降破傷風トキソイドを受けることをお勧めします。

[*] DPT-IPV：沈降精製百日せきジフテリア破傷風不活化ポリオ混合ワクチン
[***] DT：沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド

11　ポリオの話

ポリオの話

ポリオはポリオウイルスによって四肢（ししに麻痺（まひ）がおきる病気です。子どもがかかることが多く，かつては「小児まひ」とも呼ばれていましたが，実際には成人でもかかる可能性があります。わが国ではワクチンの高い接種率のおかげで地域での自然感染による患者発生はありません。しかし，一部の国では今でもポリオの流行があり，さらに近年では先進国の大都市においてポリオ患者の発生や環境水からポリオウイルスの検出が報告されています。そのため、このウイルスがいつ国内に入ってくるかわかりません。また，それらの国々に出かける時に十分な抗体がないと感染する危険があります。そのため，現在でもポリオワクチンによる予防は欠かせません。

◎ワクチンの接種対象

乳幼児は DPT-IPV *四種混合ワクチン（場合によっては単独不活化ポリオワクチン）で予防が可能で，生後 2 か月から定期接種として受けることができます。接種回数が 4 回と多いので，接種もれに注意してください。

なお，不活化ポリオワクチンは接種から時間がたつとその特性上，感染を予防する力が低下してくるため，就学前に任意接種として単独不活化ポリオワクチンの追加接種を受けることをお勧めします。

12　結核の話

結核の話

結核は過去の病気と考えられがちですが，日本は欧米先進国と比べてまだ患者数が多く，2021 年には高齢者を中心として約 1 万 2 千人が発病し，約 2 千人が死亡しています。一方で，小児結核においては日本の患者数は年間 50 人程度と，結核が少ない米国（一部の方にのみ BCG ワクチン接種が行われている）よりも少なくなっています。これは BCG ワクチン接種の効果によるものと考えられています。小児の結核は，家族など周りの大人からうつることが多く，症状も乏しく気づきにくい場合があります。乳幼児は結核に対する抵抗力が弱く，重症化して結核性髄膜炎（けっかくせいずいまくえん）や粟粒結核（ぞくりゅうけっかく）になりやすいためワクチンで重症化を予防することが重要です。予期せぬ感染による結核の発病を防ぐため，BCG ワクチン接種を早めに受けましょう。

◎ワクチンの接種対象

生後 1 歳に達するまでに定期接種として受けることができますが，標準的な接種期間は生後 5 か月から 8 か月に達するまでの間です。

13　麻疹（はしか）の話

麻疹の話

麻疹（ましん）は麻疹ウイルスの空気感染によっておこり，感染力が強く予防接種を受けないと多くの方がかかる病気です。麻疹にかかると 39 ～ 40℃の高熱と発しんがみられ，ときに肺炎・中耳炎・気管支炎・脳炎などの合併症を併発します。麻疹にかかった方は先進国でも数千人に 1 人の割合で死亡するといわれています。ワクチン接種による予防が最も重要です。日本においては，2006 年からのワクチン 2 回接種により，2015 年に麻疹排除を達成しました。国内における大きな流行はみられなくなりましたが，海外からの輸入例を中心に，国内でのワクチン接種 1 回または未接種の集団において，現在も小さな流行が繰り返されているため今後も注意が必要です。

◎ワクチンの接種対象

定期接種では，第 1 期：1 歳児，第 2 期：小学校入学前 1 年間の小児に，麻しん風しん混合（MR）ワクチンまたは麻しんワクチンを接種します。原則として MR ワクチンを接種します。世界ではまだ流行している国があり，国内でも主に海外からのウイルス持込により散発することがあります。国内での流行を防止するためにも，引き続き高いワクチン接種率を維持することが重要です。

14　風疹の話

風疹の話

風疹は風疹ウイルスの飛沫感染によっておこり，発しん，発熱，首や耳の後ろのリンパ節がはれることを主な症状とする病気です。風疹にかかると，ときに関節痛・血小板 減少性 紫斑病・脳炎などの合併症を併発することがあります。また，免疫のない妊婦が妊娠初期にかかると白内障・心疾患・難聴等の症状をもつ先天性風疹症候群（CRS）児を出生することがあります。予防はワクチン接種以外にありません。

◎ワクチンの接種対象

定期接種では，第 1 期：1 歳児，第 2 期：小学校入学前 1 年間の小児に，麻しん風しん混合（MR）ワクチンまたは風しんワクチンを接種します。原則として MR ワクチンを接種します。また，2019 年度より抗体が低い成人男性に対しての定期の予防接種（第 5 期接種）が導入されています。1962（昭和 37）年 4 月 2 日～ 1979（昭和 54）年 4 月 1 日生まれの男性の方は，お住まいの市区町村からクーポンが届いたらすぐに指定された医療機関で風疹の抗体検査を行い，抗体の値の低い方は予防接種を行いましょう。周囲の方から対象となる成人男性への声かけも重要です。また，妊娠中は生ワクチンの接種ができないので妊娠を望まれる方や妊婦と同居のご家族は，事前にワクチン接種歴の確認とともに医療機関で風疹抗体の値を確認することが望まれます。

15　水痘（みずぼうそう）の話

水痘（みずぼうそう）の話

水痘（すいとう）は感染力の強い水痘帯状疱疹（すいとうたいじょうほうしん）ウイルスによっておこる病気です。発熱，水ぶくれを伴う発しんが主な症状で，中には重症化し入院する場合もあります。特に白血病児やステロイド剤などを服用しているネフローゼ患児等，免疫状態の悪い小児がかかると，重篤（じゅうとく）になりやすく大変危険です。妊婦が妊娠初期にかかると胎児に障害をきたしたり，分娩直前にかかると新生児が早期に水痘を発症し重症になることもあります。

◎ワクチンの接種対象

定期接種では，生後 12 か月から生後 36 か月に至るまでの，水痘にかかったことがない方が対象です。標準的には生後 12 か月から 15 か月までの間に 1 回目の接種を行います。２回目の接種は 1 回目の接種から 3 か月以上の間隔をあけて（標準的には６か月から 12 か月の間隔をあけて）行います。

16　おたふくかぜの話

おたふくかぜの話

おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）は，ムンプスウイルスを吸い込むことによる飛沫感染やウイルスのついた手で口や鼻を触ることで感染する接触感染によっておこる，発熱と耳下腺のはれを特徴とする病気です。ウイルスが全身の臓器や神経組織に感染して無菌性髄膜炎・脳炎・難聴，思春期以降では精巣炎・卵巣炎等の合併症をおこすことがありますので注意が必要です。特に難聴を合併する頻度は高く，重篤で治療による効果が期待できませんので，おたふくかぜワクチンで予防することが大切です。

◎ワクチンの接種対象

任意接種のワクチンですが，おたふくかぜは３～６歳に発病することが多いため，１歳と小学校入学前の１年間の計２回の接種が勧められており，MRワクチンなどと同じ時期，または終了後できるだけ早期に接種することが勧められています。かかりつけ医に相談してください。

17　日本脳炎の話

日本脳炎の話

日本脳炎は蚊（主にコガタアカイエカ）が媒介するウイルスでおこる病気です。夏から秋にかけて流行し，発病すると高熱・頭痛・嘔吐（おうと）・意識障害やけいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。症状が治まった後でも多くに知覚障害や運動障害の後遺症を残し，20 ～ 40％は死亡するといわれる恐ろしい感染症です。予防はワクチン接種を受けて免疫をつけることが最も効果的です。

◎ワクチンの接種対象

定期接種では，基礎免疫は生後 6 ～ 90 か月に接種しますが，標準的には 3 歳児に 6 日から 28 日までの間隔で 2 回，そして 1 年ほどの間隔をあけ 1 回追加接種します。その後，標準的には 9 歳児に 1 回追加接種します。このワクチンは，2005 年 5 月 30 日に積極的な接種勧奨が控えられましたが，2010 年より順次勧奨を再開しています。くわしくは，お住まいの自治体にお問い合わせください。

18　髄膜炎菌感染症の話

髄膜炎菌感染症の話

侵襲性髄膜炎菌感染症は，髄膜炎菌が髄液または血液などの本来細菌がいない部位に侵入することを介して発症する感染症です。髄膜炎菌は，せきやくしゃみによってヒトからヒトに感染します。症状としては，発熱，頭痛，羞明（強い光に不快感，痛みを感じること），筋肉痛，倦怠感などがみられますが，発症後は急速に症状が進行し，24 ～ 48 時間以内に死亡に至るケースもあります。回復した場合も難聴，神経障害，手足の切断などの後遺症が残るケースもあります。侵襲性髄膜炎菌感染症の初期症状は，かぜのような症状で診断が難しい病気ですが，進行が速く重症化しやすいため，早期の診断，治療が重要です。

◎ワクチンの接種対象

国内外にかかわらず学生寮や部活動などで集団生活をされる方や，年齢にかかわらず髄膜炎菌の流行地へ旅行される方，髄膜炎菌ワクチンが定期接種になっている国に留学する方には，接種が勧められています。さらに，ハイリスク患者（補体欠損症・無脾症もしくは脾臓機能不全，HIV 感染症，エクリズマブやラプリズマブの治療患者）にも接種が勧められています。

※現在日本で承認されており接種できるワクチンは、髄膜炎菌の血清群 A，C，Y，W に対する予防ワクチンです。

19　ヒトパピローマウイルス感染症の話

ヒトパピローマウイルス感染症の話

ヒトパピローマウイルス（HPV）は誰でも感染する可能性があるウイルスで，主に性行為によって感染します。感染してもほとんどの場合は自然に排除されますが，ウイルスが排除されずに長期間感染が続く場合，5 ～ 10 年以上の年月を経て子宮頸がんを発症することがあります。HPV は，子宮頸がんのほかにも，外陰がん，腟がん，尖圭（せんけい）コンジローマ（性器や肛門周辺に出来る鶏冠状（とさかじょう）のイボ）などの病気もひきおこします。子宮頸がんは検診で早期発見，早期治療が可能ながんですが，治療によって妊娠や出産ができなくなる可能性がありますので，ワクチンによる予防が大切です。HPV ワクチンは性交渉を開始する前の年齢で接種するのが最も効果的であると考えられます。

◎ワクチンの接種対象

接種対象は 2 価ワクチンで 10 歳以上，4 および 9 価ワクチンで 9 歳以上の女性で，10 ～ 14 歳の女性に対する接種が最も推奨されており，次に 15 ～ 26 歳の女性への接種が推奨されています。また，接種を希望する 27 ～ 45 歳の女性にも勧められています。

2013 年 4 月 1 日から 2 および 4 価ワクチン，

2023 年 4 月 1 日から 9 価ワクチンが定期の予防接種となりましたが，対象は 12 歳となる日の属する年度の初日から 16 歳となる日の属する年度の末日までの間にある女子で，13 歳となる日の属する年度の初日から当該年度の末日までの間が標準的な接種期間とされています。

なお，HPV ワクチンでは，接種後に認められた多様な症状（機能性身体症状）について，専門家による分析・評価が行われ，この分析・評価の結論が出るまでの間は接種の積極的な勧奨は一時的に差し控えられていました。その後の継続的な議論の結果，安全性について特段の懸念が認められないことが確認され，接種による有効性が副反応のリスクを明らかに上回ると認められたことから，2021 年 11 月 26 日にこの差し控えの状態は終了となりました。2022 年 4 月からは，自治体から対象者へ予診票が送付されるなどの個別勧奨が行われています。

また，積極的な接種勧奨を差し控えている間に定期接種の機会を逃してしまった方（平成 9 年度～平成 17 年度生まれ）を対象に 2022 年 4 月 1 日から 3 年間，キャッチアップ接種の実施が行われています。

※ HPV ワクチンに関する全般的な情報は，厚生労働省「ヒトパピローマウイルス感染症（HPV ワクチン）」をご参照ください。
（https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/index.html）

20　インフルエンザの話

インフルエンザの話

インフルエンザは普通のかぜとは違います。感染力が強く症状の重い呼吸器の病気で，ときに世界的な大流行をおこします。肺炎・急性中耳炎・脳症等の合併症をおこして重症化する場合もあります。感染後の発症を予防し，重症化を予防するためにもワクチンが有効とされています。そのため，特に乳幼児や高齢者，慢性疾患を持つ方たちに接種が勧められています。また，流行の原因となるウイルスは毎年変化するので，ワクチンの毎年の接種が勧められています。

◎ワクチンの接種対象

流行する前に，13 歳未満の方は 2 回，13 歳以上の方は 1 回または 2 回接種（接種間隔は 4 週間が望ましい）を受けてください。また，定期接種の対象者は，65 歳以上の方および 60 歳以上 65 歳未満の方で心臓，腎臓（じんぞう），呼吸器などに重い病気のある方などです。

21　成人肺炎球菌感染症の話

成人肺炎球菌感染症の話

肺炎球菌がひきおこす主な感染症としては，肺炎，髄膜炎，菌血症，気管支炎，中耳炎などがあります。肺炎球菌は，肺炎の原因となる細菌として見つかる頻度が高く，高齢者や基礎疾患を持つ方などは，肺炎にかかりやすく病状も重くなりやすいことが知られています。ペニシリンなどの抗菌薬が効きにくい肺炎球菌も見られることから，ワクチンによる予防が大切になります。

◎ワクチンの接種対象

法律に基づき行政の費用負担のある定期接種として，65 歳の方（2023 年度までは特例で 70 歳以上の 5 歳刻みの方も対象となります）および 60 歳から 65 歳未満の方で心臓，腎臓，呼吸器などに重い病気などのある方を対象として，23 価多糖体ワクチンが使用されています。詳しくは医師やお住まいの自治体に確認してください。

また，法律に基づかず希望者が自己負担で受ける任意接種として 23 価多糖体ワクチンと 13 価結合型ワクチンおよび 15 価結合型ワクチンの 3 種類が選択可能です。

肺炎球菌ワクチンには，23 価多糖体ワクチンと 13 価結合型ワクチンおよび 15 価結合型ワクチンの 3 種類があり，いずれも，高齢者および呼吸器，心臓，肝臓，腎臓に病気のある方，糖尿病の方，また，病気やけがで脾臓をとってしまった方などの肺炎球菌による感染症のリスクが高い方が接種対象となっています。

23 価多糖体ワクチンは，65 歳の方（2023 年度までは特例で 70 歳以上の 5 歳刻みの方も対象となります）および 60 歳から 65 歳未満の方で心臓，腎臓，呼吸器などに重い病気などのある方は，法律に基づき行政の費用負担のある定期接種として接種できます。詳しくは医師やお住まいの自治体に確認してください。また，病気やけがで脾臓をとってしまった方は健康保険で接種できます。これらに該当しない方は，自己負担の任意で接種できます。

13 価結合型ワクチンおよび 15 価結合型ワクチンは，希望者が自己負担で受ける任意接種となります。

22　帯状疱疹の話

帯状疱疹の話

帯状疱疹（たいじょうほうしん）は，水痘（すいとう）（みずぼうそう）をおこすウイルスと同じ水痘帯状疱疹（すいとうたいじょうほうしん）ウイルスによっておこる病気です。子どものころに水痘にかかることが多いですが，水痘が治った後も，このウイルスは体の中に潜んでいます。その後，過労や加齢，病気などで免疫力が低下してくると体に潜んでいたウイルスが再び活動を始め，水ぶくれや痛みを伴う発しんが皮膚に帯状に出てくることがあります。これが帯状疱疹という病気です。

◎ワクチンの接種対象

日本で発売されている帯状疱疹を予防するワクチンには，生ワクチンと不活化ワクチンの 2 種類があります。生ワクチンは水痘のワクチンと同じもので，50 歳以上の方を対象に 1 回の接種を行います。不活化ワクチンは，50 歳以上の方と帯状疱疹に罹患するリスクが高いと考えられる 18 歳以上の方を対象に 2 回の接種を行います。帯状疱疹予防として生ワクチンを接種する場合，免疫機能に異常がある病気の方や免疫を抑える治療を受けている方には接種できません。

23　A 型肝炎の話

A 型肝炎の話

A 型肝炎ウイルスに汚染された水や食べ物などによる経口感染や，感染者との性的接触よって急性肝炎をおこす感染症です。小児では感染しても症状が出ない不顕性感染が多いですが，成人では感染者のほとんどが発病します。症状としては 38℃以上の発熱・全身倦怠感・下痢・黄疸が現れ，治癒するまでには 2 ～ 3 か月間ほどかかります。まれに劇症肝炎をおこすこともあります。

◎ワクチンの接種対象

A 型肝炎流行国への出張や旅行，赴任や留学等の海外渡航者，魚介類を扱う生産者や調理従事者，A 型肝炎患者と接触の機会が多い医療従事者や介護従事者，保育園・幼稚園などの職員，A 型肝炎ウイルスに対する抗体陰性の慢性肝疾患患者，集団発生・家族内発生時の周辺の方などに接種が勧められます。2 ～ 4 週間隔で 2 回接種し，1 回目から 24 週の間隔をおいて 3 回目を接種します。急ぐ場合は，2 週間隔で 2 回接種しても免疫は得られますが，3 回目を接種することで，より長期の免疫が得られます。国内でも食物などによる感染がおきていますので注意が必要です。

24 海外に出かけるときの予防接種

海外に出かけるときの予防接種

世界には多くの感染症があります。まずは日本で行える予防接種をきちんと受けておく必要があります。特にお子さんの留学や家族で海外に長期赴任をする場合は，渡航先の状況にあわせてあらかじめスケジュールを作り，日本で接種を受けていくことをお勧めします。更に，渡航先によっては蚊に刺されることで感染するマラリアやデング熱などにも注意が必要です。くわしくは，渡航先の各国大使館，全国の検疫所もしくは下記のホームページ等で，ご確認ください。

- 厚生労働省検疫所（FORTH）の
  海外で健康に過ごすために
  （http://www.forth.go.jp/）
- 外務省海外安全対策　世界の医療情報
  （http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/index.html）
- 外務省海外安全ホームページ
  （http://www.anzen.mofa.go.jp/）

●日本で承認されているワクチン

黄熱

黄熱の流行地域は，アフリカと中南米の一部で，赤道を中心とした南北約 15 度の範囲内です。黄熱の病原ウイルスは黄熱ウイルスです。黄熱ウイルスを保有しているネッタイシマカなどに吸血されることにより感染します。

潜伏期は通常 3 ～ 6 日で，頭痛，めまい，発熱，筋肉痛，吐き気がみられ，その後，黄疸（おうだん），吐血，下血，蛋白尿などの症状が現れ，重症例では昏睡（こんすい）状態となり，死亡します。重症化した場合の致死率は一般的に 20％以上といわれています。

◎ワクチンの接種対象

検疫所と厚生労働省が指定した医療機関でのみ接種できます。くわしくは FORTH をご確認ください。1 回 0.5mL を皮下に接種します。9 か月未満の乳児は接種が受けられません。国によっては黄熱予防接種の国際証明書がないと入国できないところもあります。接種証明書は接種後 10 日目から 10 年間有効でしたが，2016 年 7 月より有効期限が生涯有効に延長されました。接種して有効期限が過ぎた証明

書であっても生涯有効な証明書になりますので，大切に保管してください。

狂犬病

狂犬病ウイルスに感染している動物に咬(か)まれたり，口を舐められたりすることで感染し，発病した場合には，ほぼ100％死亡する感染症です。1957年以降は国内での発生例はありませんが，2020年に海外で動物に咬まれ入国後に発病した輸入感染事例がありました。ワクチンには，動物に咬まれる前の予防的接種（曝露(ばくろ)前免疫）と咬まれた後の発病予防（曝露後免疫）の使い方があります。予防的接種を受けた方でも，動物に咬まれた後には必ず発病予防としての予防接種を受けてください。

◎ワクチンの接種対象

曝露前免疫と曝露後免疫の使い方によって接種回数や間隔が異なりますので，医師の指示に従って接種を受けてください。

*1 2008 年 12 月 19 日から国内での接種開始。生後 2 か月以上 5 歳未満の間にある者に行うが、標準として生後 2 か月以上 7 か月未満で接種を開始すること。接種方法は、通常、生後 12 か月に至るまでの間に 27 日以上の間隔で 3 回皮下接種（医師が必要と認めた場合には 20 日間隔で接種可能）。接種開始が生後 7 か月以上 12 か月未満の場合は、通常、生後 12 か月に至るまでの間に 27 日以上の間隔で 2 回皮下接種（医師が必要と認めた場合には 20 日間隔で接種可能）。初回接種から 7 か月以上あけて、1 回皮下接種（追加）。接種開始が 1 歳以上 5 歳未満の場合、通常、1 回皮下接種。

*2 2013 年 11 月 1 日から 7 価結合型に替わって定期接種に導入。生後 2 か月以上 7 か月未満で開始し、27 日以上の間隔で 3 回接種。追加免疫は通常、生後 12 ～ 15 か月に 1 回接種の合計 4 回接種。接種もれ者には、次のようなスケジュールで接種。

接種開始が生後 7 か月以上 12 か月未満の場合：27 日以上の間隔で 2 回接種したのち、60 日間以上あけてかつ 1 歳以降に 1 回追加接種。接種開始が 1 歳：60 日間以上の間隔で 2 回接種。接種開始が 2 歳以上 5 歳未満：1 回接種。

2014 年 6 月から 65 歳以上の高齢者への接種が可能となる。

2020 年 5 月 29 日から、6 歳以上 65 歳未満への接種が可能となる。対象は、「肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる者」。

なお、「肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる者」とは、以下のような状態の者を指す。

- 慢性的な心疾患、肺疾患、肝疾患又は腎疾患
- 糖尿病
- 基礎疾患若しくは治療により免疫不全状態である又はその状態が疑われる者
- 先天的又は後天的無脾症（無脾症候群、脾臓摘出術を受けた者等）
- 鎌状赤血球症又はその他の異常ヘモグロビン症
- 人工内耳の装用、慢性髄液漏等の解剖学的要因により生体防御機能が低下した者
- 上記以外で医師が本剤の接種を必要と認めた者

注：接種方法が年齢により異なる。2 か月齢以上 6 歳未満は皮下接種、6 歳以上は筋肉内接種。

*3 2023 年 4 月 10 日から国内での接種開始。2023 年 6 月 26 日から小児への接種が可能となる。高齢者または 18 歳以上の肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる者には、1 回筋肉内接種。18 歳未満の肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる者には、1 回皮下又は筋肉内接種。小児における肺炎球菌による侵襲性感染症の予防では、27 日間以上の間隔で 3 回皮下又は筋肉内に接種。追加免疫は、3 回目接種から 60 日間以上の間隔をおき皮下又は筋肉内に 1 回接種。接種もれ者には、次のようなスケジュールで皮下又は筋肉内に接種する。接種開始が生後 7 か月以上 12 か月未満の場合：27 日以上の間隔で 2 回接種したのち、60 日間以上あけてかつ 1 歳以降に 1 回追加接種。接種開始が 1 歳：60 日間以上の間隔で 2 回接種。接種開始が 2 歳以上 18 歳未満：1 回接種。「肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる者」の例示については、*2 を参照。

*4 2016 年 10 月 1 日から定期接種導入。2016 年 4 月 1 日以降に生まれた者が対象。母子感染予防は HB グロブリンと併用して定期接種ではなく健康保険で受ける。

健康保険適用：

① B 型肝炎ウイルス母子感染の予防 (抗 HBs 人免疫グロブリンとの併用)【HB ワクチン】通常、0.25mL を 1 回、生後 12 時間以内を目安に皮下接種（被接種者の状況に応じて生後 12 時間以降とすることも可能。
その場合であっても生後できるだけ早期に行う）。更に 0.25mL ずつを初回接種の 1 か月後及び 6 か月後の 2 回、皮下接種。ただし、能動的 HB s 抗体が獲得されていない場合には追加接種。【HBIG（原則として HB ワクチンとの併用）】初回注射は 0.5 ～ 1.0mL を筋肉内注射。時期は生後 5 日以内（なお、生後 12 時間以内が望ましい）。また、追加注射には 0.16 ～ 0.24mL/kg を投与。2013 年 10 月 18 日から接種月齢変更。

②血友病患者に「B 型肝炎の予防」の目的で使用した場合

③業務外で「HBs 抗原陽性でかつ HBe 抗原陽性の血液による汚染事故後の B 型肝炎発症予防（抗 HBs 人免疫グロブリンとの併用）」

労災保険適用：

①業務上、HBs 抗原陽性でかつ HBe 抗原陽性血液による汚染を受けた場合（抗 HBs 人免疫グロブリンとの併用）

②業務上、既存の負傷に HBs 抗原陽性でかつ HBe 抗原陽性血液が付着し汚染を受けた場合（抗 HBs 人免疫グロブリンとの併用）

*5「出生〇週後」は、生まれた日を 0 日として計算する。初回接種は出生 14 週 6 日後までに行う。1 価で 2 回接種、5 価で 3 回接種のいずれかを選択。2020 年 10 月 1 日から、2020 年 8 月 1 日以降に生まれた児を対象に定期接種導入。

*6 D：ジフテリア、P：百日咳、T：破傷風、IPV：不活化ポリオを表す。IPV は 2012 年 9 月 1 日から、DPT-IPV 混合ワクチンは 2012 年 11 月 1 日から定期接種に導入。回数は 4 回接種だが、OPV（生ポリオワクチン）を 1 回接種している場合は、IPV をあと 3 回接種。OPV は 2012 年 9 月 1 日以降定期接種としては使用できなくなった。DPT-IPV ワクチンは、生ポリオワクチン株であるセービン株を不活化した IPV を混合した DPT-sIPV ワクチン。

*7 2018 年 1 月 29 日から再び使用可能となった。

*8 なお、生ポリオワクチン（OPV）2 回接種者は、ポリオ流行国渡航前を除き、IPV の接種は不要。OPV1 回接種者は IPV3 回接種。OPV 未接種者は IPV4 回接種。

*9 緊急避難的に接種する場合がある。

*10 原則として MR ワクチンを接種。なお、同じ期内で麻疹ワクチンまたは風疹ワクチンのいずれか一方を受けた者、あるいは特に単抗原ワクチンの接種を希望する者は単抗原ワクチンの選択可能。

*11 詳細は https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/rubella/Rubella-Hltiter8_Ver4.pdf を参照。

*12 2014 年 10 月 1 日から定期接種導入。3 か月以上（標準的には 6 ～ 12 か月）の間隔をあけて 2 回接種。

*13 平成 19 年 4 月 2 日から平成 21 年 10 月 1 日生まれの者は生後 6 か月から 90 か月未満と 9 歳から 13 歳未満の期間内であれば定期接種として第 1 期の接種可能。

*14 平成 7 年 4 月 2 日から平成 19 年 4 月 1 日生まれの者で 4 回の接種が終わっていない者。ただし 20 歳未満の者に限る。

*15 基本的に同一のワクチンを規定の回数、筋肉内に接種。接種間隔・回数はワクチンによって異なる。なお、2020 年 12 月から 4 価ワクチンの対象に 9 歳以上の男性が加わったが、定期接種の対象は小学校 6 年生～高校 1 年生相当年齢の女性のみ。平成 9 年度生まれ～平成 18 年度生まれの女性で、過去に HPV ワクチンの接種を合計 3 回受けていない者は、令和 4 年 4 月～令和 7 年 3 月の間、改めての接種機会あり。

*16 9 歳以上の女性に、1 回 0.5mL を合計 3 回、筋肉内注射。2 回目は初回接種の 2 か月後、3 回目は 6 か月後に接種。初回接種の 2 か月後及び 6 か月後に接種できない場合、2 回目接種は初回接種から少なくとも 1 か月以上、3 回目接種は 2 回目接種から少なくとも 3 か月以上の間隔をおいて接種する。9 歳以上 15 歳未満の女性は、初回接種から 6 ～ 12 ヵ月の間隔を置いた合計 2 回の接種とすることができる。

*17 定期接種は毎年 1 回。KM バイオロジクス（株）、（一財）阪大微生物病研究会、デンカ（株）のインフルエンザワクチンは生後 6 か月以上、第一三共（株）のインフルエンザワクチンは 1 歳以上が接種対象者。

*18 2014 年 10 月 1 日から定期接種導入。2019 年度は、年度内に 65・70・75・80・85・90・95・100 歳以上になる者、2020 年 4 月 1 日からは、年度内に 65・70・75・80・85・90・95・100 歳になる者であって、まだ未接種の者は定期接種として 1 回接種可能。なお、「2 歳以上の脾摘患者における肺炎球菌による感染症の発生予防」の目的で使用した場合にのみ健康保険適用あり。

*19 2023 年 2 月 10 日現在、ジフテリアトキソイド結合体ワクチン（製品名：メナクトラ®筋注）と、破傷風トキソイド結合体ワクチン（製品名：メンクアッドフィ®筋注）がある。血清群 A,C,Y,W による侵襲性髄膜炎菌感染症を予防する。発作性夜間ヘモグロビン尿症におけ

る溶血抑制、非典型溶血性尿毒症症候群における血栓性微小血管障害の抑制、全身型重症筋無力症、あるいは視神経脊髄炎スペクトラム障害（視神経脊髄炎を含む）の再発予防でエクリズマブ（製品名：ソリリス®点滴静注）を投与する場合、及び発作性夜間ヘモグロビン尿症、非典型溶血性尿毒症症候群、あるいは全身型重症筋無力症でラブリズマブ（製品名：ユルトミリス®点滴静注）を投与する場合、及び寒冷凝集素症でスチムリマブ（製品名：エジャイモ®点滴静注）を投与する場合は健康保険適用あり。補体阻害薬の適正使用上、2 歳未満でも髄膜炎菌ワクチンの接種が必要な症例あり。

*20 一般医療機関での接種は行われておらず、検疫所での接種。

*21 2 つの製剤があるが、KM バイオロジクス（株）製は皮下接種、GSK（株）製は筋肉内接種で行う。接種間隔、接種回数はそれぞれのワクチンの添付文書を参照のこと。なお、2022 年 10 月現在、KM バイオロジクス（株）製は出荷停止されており、供給再開時期は未定である。

*22 50 歳以上の者には、0.5mL を 2 回、通常、2 か月の間隔をおいて、筋肉内に接種する。帯状疱疹に罹患するリスクが高いと考えられる 18 歳以上の者には、0.5mL を 2 回、通常、1 ～ 2 か月の間隔をおいて、筋肉内に接種する。帯状疱疹に罹患するリスクが高いと考えられる者とは、以下のような状態の者を指す。

・疾病又は治療により免疫不全である者、免疫機能が低下した者又は免疫機能が低下する可能性がある者

・上記以外で、医師が本剤の接種を必要と認めた者

*23 2021 年 2 月 14 日に製造販売承認（コミナティ筋注：ファイザー社）。2 月 17 日から接種開始。日局生理食塩液 1.8mL にて希釈し、1 回 0.3mL を合計 2 回、通常、3 週間の間隔で筋肉内に接種する。2021 年 6 月 1 日から接種年齢が「16 歳以上」から「12 歳以上」に変更。2 回目から 3 か月以上空いていれば 3 回目を、3 回目から 3 か月以上空いていれば 4 回目を接種可能。

*24 2022 年 1 月 21 日に特例承認。日局生理食塩液 1.3mL にて希釈し、1 回 0.2mL を合計 2 回、通常、3 週間の間隔で筋肉内に接種する。2 回目から 3 か月以上空いていれば 3 回目を接種可能。

*25 2023 年 2 月 27 日に薬事承認（コミナティ筋注 5~11 歳用（2 価：起源株 / オミクロン株 BA.4-5）：ファイザー社）。3 月 8 日より接種開始。日局生理食塩液 1.3mL にて希釈する。追加免疫として、1 回 0.2mL を筋肉内に接種する。前回の SARS-CoV-2 ワクチンの接種から少なくとも 3 か月経過した後に接種可能。

*26 2022 年 10 月 5 日に薬事承認（コミナティ筋注 6 ヵ月～ 4 歳用：ファイザー社）。10 月 24 日より接種開始。生理食塩水 2.2mL に溶解して 1 回 0.2mL を合計 3 回、筋肉内に接種する。2 回目は通常 3 週間の間隔で、3 回目は 2 回目の接種から少なくとも 8 週間経過した後に接種。

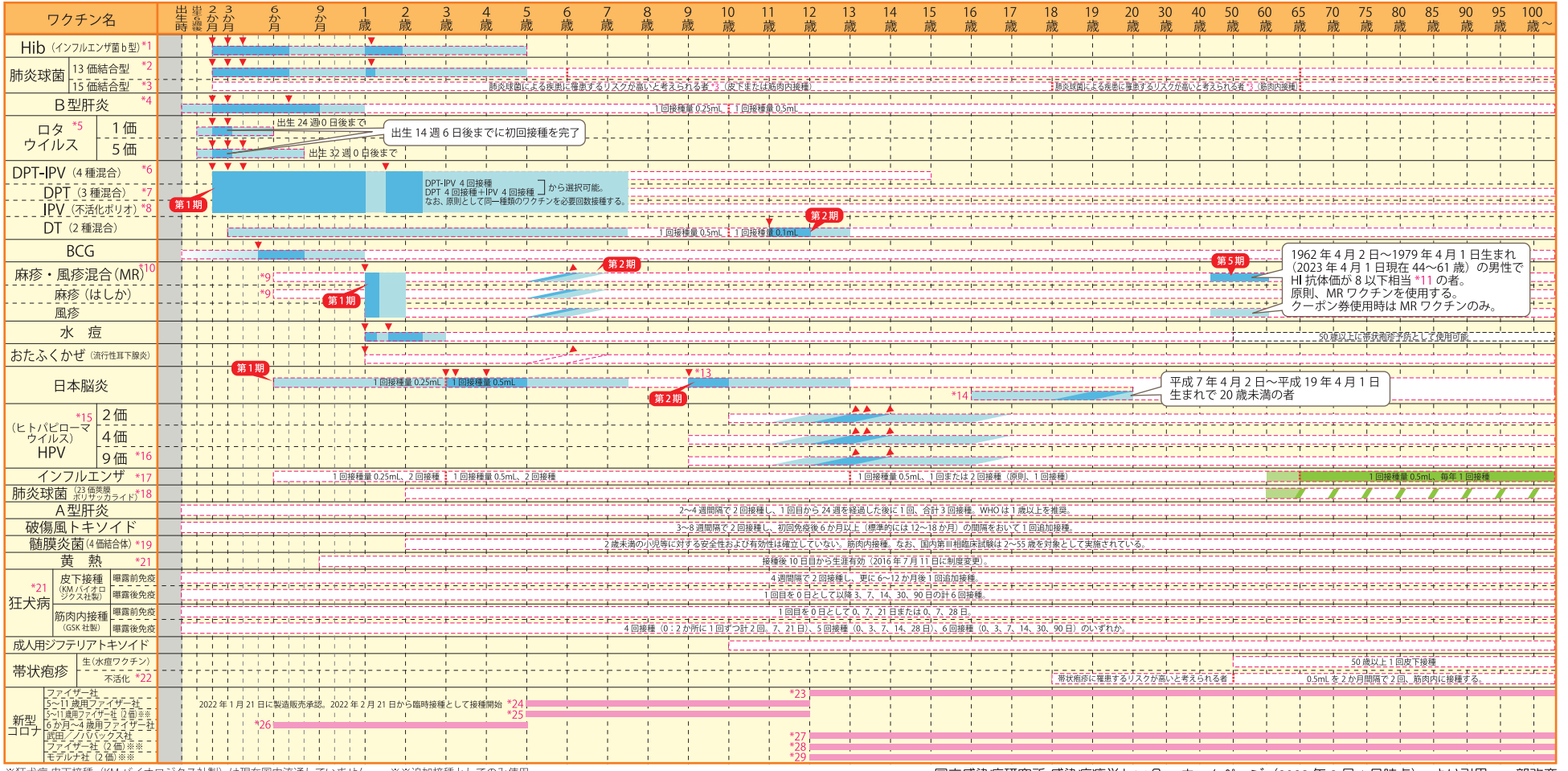
*27 2022 年 4 月 19 日製造販売承認（ヌバキソビッド筋注：武田 / ノババックス社）。5 月 25 日から接種開始。12 歳以上に対し、希釈せず、1 回 0.5mL を合計 2 回、通常、3 週間の間隔をおいて、筋肉内に接種する。追加免疫として、12 歳以上は前回の SARS-CoV-2 ワクチンの接種から少なくとも 6 か月経過した後に接種可能。

*28 コミナティ RTU 筋注（2 価：起源株 / オミクロン株 BA.1）は 2022 年 9 月 12 日に薬事承認、9 月 20 日より接種開始。コミナティ RTU 筋注（2 価：起源株 / オミクロン株 BA.4-5）は 10 月 5 日に薬事承認、10 月 13 日より接種開始。
追加免疫として、1 回 0.3mL を筋肉内に接種する。接種対象は過去に初回免疫又は追加免疫として SARS-CoV-2 ワクチンの接種歴のある 12 歳以上の者。前回の SARS-CoV-2 ワクチンの接種から少なくとも 3 か月経過した後に接種可能。

*29 スパイクバックス筋注（2 価：起源株 / オミクロン株 BA.1）は 2022 年 9 月 12 日に薬事承認、9 月 20 日より接種開始。スパイクバックス筋注（2 価：起源株 / オミクロン株 BA.4-5）は 11 月 1 日に薬事承認、11 月 28 日より接種開始。追加免疫として、1 回 0.5mL を筋肉内に接種する。接種対象は過去に初回免疫又は追加免疫として SARS-CoV-2 ワクチンの接種歴のある 12 歳以上の者。前回の SARS-CoV-2 ワクチンの接種から少なくとも 3 か月経過した後に接種可能。

定期 / 臨時 / 任意予防接種スケジュール

予防接種法に基づく定期の予防接種は、本図に示したように、政令で接種対象年齢が定められています。この年齢以外で接種する場合は、任意接種として受けることになります。ただしワクチン毎に定められた接種年齢がありますのでご注意ください。なお、▼は一例を示したものです。接種スケジュールの立て方については被接種者の体調・生活環境、基礎疾患の有無等を考慮して、かかりつけ医あるいは自治体の担当者とよく御相談下さい。 ver.2023.7.16



※狂犬病 皮下接種（KM バイオロジクス社製）は現在国内流通していません。　※※追加接種としてのみ使用。

国立感染症研究所 感染症疫学センター ホームページ（2023 年 8 月 1 日時点）　より引用　一部改変

定期/臨時/任意予防接種スケジュール　表の見方

- 接種量・接種回数等が変わる年齢
- 接種の例
- 接種可能期間
- A類定期接種対象期間
- A類定期接種（標準的な接種期間）
  （ロタウイルスワクチンについては、初回接種の推奨期間）
- B類定期接種対象期間
  （一部の基礎疾患を有する者）
- B類定期接種対象期間
- 臨時接種
- 接種可能な年齢（必要がある場合のみ）

*1～*29 についての説明は、30-32 ページに明記しております。

広げてみてね！

わが国で実施されている
「定期 / 臨時 / 任意の予防接種スケジュール」を
わかりやすくまとめました。
お子さんやご自身の予防接種計画を立てる際に
ご利用ください。

日本ワクチン産業協会では，予防接種に
関するさまざまな情報をホームページで
紹介しております。ぜひご覧ください。

日本ワクチン　検索

http://www.wakutin.or.jp/

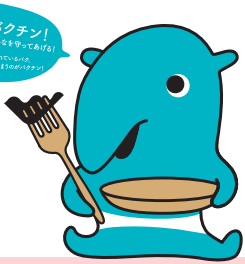
（PR 委員会・広報専門委員会）

よぼうせっしゅのはなし

ワクチンで、VPDを防ごう!

VPD（ヴイピーディー）とは、ワクチンで防げる病気のこと。

Vaccine（ワクチンで）Preventable（防げる）Diseases（病気）の略です。



一般社団法人日本ワクチン産業協会

〒101-0047　東京都千代田区内神田 2-14-4
内神田ビルディング４階

TEL：03-6206-9660

http://www.wakutin.or.jp/　　mail@wakutin.or.jp

2023. 8